

北原(成田)・中江(船橋)の必勝にむけば進む

成田支部 通信員発

日刊 勤労千葉

83, 4, 20

No.1320

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電二五三五六・公衆〇四七二二)七二〇七

中江〓北原両候補の圧倒的勝利を期し、日暮支部長を先頭に連日大奮闘している成田支部より闘いの報告が入りました。(編集局)

一九八〇年六月、衆参同時選挙によって、政府自民党は、安定多数を占め、以後われわれ労働者、とりわけ国鉄労働者に対し「臨調・行革」を錦の旗に振りかざし異常な程の攻撃をかけてきている。中曽根反動内閣の、四海峡封鎖、不沈空母発言により、一層戦争と軍大化・改憲にむかつて突進することが明確となった。だからこそ、政府・権力・公団は三里塚空港を「軍事空港」として使用せざるを得ず、そのためにも反対勢力の解体攻撃はますます強化されてくることは、火を見るよりも明らかだ。

成田支部は中江選挙の必勝と合わせて、重点推薦候補「北原」必勝にむけ、組合員一丸となって奮闘していることを勤労千葉総ての組合員に報告したい。

脱落派の北原選挙からの 逃亡のりこえ、奮闘

北原選対は自民党・公団・革マル等の反動勢力の妨害と闘いつつ、三選に臨んでいる。しかし、三月八日の過程で、選対責任者をも含め、脱落派が逃亡するという許しがたい事態が発生した。反対同盟選対事務局は、小川嘉吉救援・法対部長を選対責任者とした新たな闘う強固な体制を確立した。そして「空港一辺倒の市政から市民のための成田市へ」を合言葉に連日連夜、北総台地を意気揚々とかけめぐっている。

成田支部「北原選対事務局」発足

支部は、一月八日支部北原選対、二月支青選対を正式に発足させ、告示までの九〇日間、五次にわたる強化行動を貫徹してきた。特に勝敗を決するといわれる成田ニュータウン地区全戸には一日三〇〇枚にもほる紙爆弾をブチ込み他候補を震えあがらせ、他班は市内在住組合員・OBその他友人・知人・国労組合員宅を一戸残らず訪問し、北原必勝に一步でも近づけようと連日のオルグを展開している。

その結果、北原候補の主張が住民に理解され、「今のままでの議会ではダメだ。清潔で真に市民の声を反映する北原さんに期待します」という声が日増しに大きくなっている。

革マルをはじめとする一切の敵対をうち破り、中江〓北原の必勝を勝ちとろう

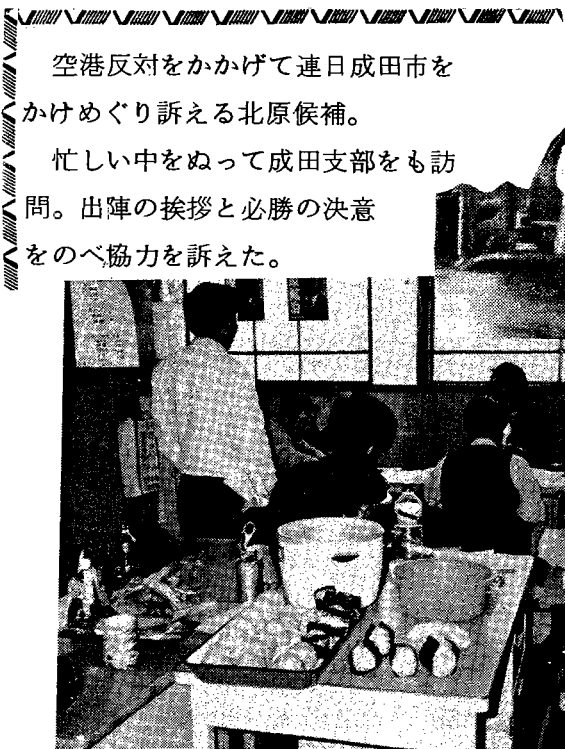
成田市議選は、定数三〇名のところ三二名の立候補に示されるように少数激戦である。

「空港反対」の原則をはっきりと掲げた精神的な闘いに恐れをなした輩が、様々な北原選挙妨害をはじめたことを見逃がすことはできない。このことは北原選挙が「単なる一地方選挙でなく日帝・中曽根の戦争政策に真向から対決する選挙闘争」であるからこそそれに対する反動のあらわれである。また、敵の先兵としてまたしても一役買っているのが革マル派である。

すでに妨害ビラ、妨害電話、脅迫、宣伝カーへのイタズラを繰り返し、さらに悪質な妨害を仕掛けてくることは明白である。

こうした一切の妨害を断固とした組織体制ではね返し、「反戦・反軍事空港の北原」と、「反核・護憲の中江」の成田と船橋での同時の必勝をなんとしても勝ちとるために、残されたわずかな日を共に奮闘し、勝利へむけ闘わん。

組合事務所には、勤務の合間や休みを返上しての支部組合員がつめかけ、オルグに宣伝にととびまわる。オニギリ、ミソ汁の炊き出し、差し入れもあって活気がみなぎる。



空港反対をかかげて連日成田市をかけめぐり訴える北原候補。忙しい中をぬって成田支部をも訪問。出陣の挨拶と必勝の決意をのべ協力を訴えた。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！